

乗用車、バス、バイクを起因物とするはさまれ巻き込まれの死亡災害発生事例（1999-2021年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
2020	3	20～22	傾斜のある道路上で、パーキングブレーキの故障により停車した低床式バスの修理のため、木製の台座にバスの後輪を乗せ、被災者がバスの車体の下に入り、パーキングブレーキのエアを抜いたところ、パーキングブレーキが解除されたことによりバスが後方に動き、台座から後輪が外れ、バスの車体と道路に全身を挟まれたもの。	40202	100～299
2020	5	12～14	本社において、商品車の走行距離およびインパネのランプ点灯状態を撮影しようとした同僚がエンジンキーを回したところ、ギアが1速に入っており、車の前に駐車していた別の商品車後部の下部にスペアタイヤの装着作業をしていた被災者に追突したもの。	40302	30～49
2020	7	6～8	被災者は入居者の朝食を事業場まで車で取りに行き、傾斜約15度の坂道に駐車し、朝食を車へ搬入後、当該事業場から出車しようとしていた。被災者が車の右側後輪の後方にあるブロック塀付近にいた時、サイドブレーキの掛かりが甘かった車が坂道を下り出し、被災者は下り出した車と塀に挟まれて死亡した。（被災者は一人で作業を行っていたため、災害の発生状況を目撃した者はいなかった。）	130201	10～29
2020	11	10～12	災害発生当日の午前中、被災者は事務所前に停めた自家用車を所定の駐車位置まで移動させようとした。運転席から身を乗り出して自車を後退させていたが、運転席から誤って転落し自車の車輪に轢かれた。被災者は被災直後意識があり、搬送先の病院で処置を受けたが翌日午前中頃に死亡したもの。	40301	30～49
2018	2	6～	被災者は路線バスの運転手。路線バスの車体の下に巻き込まれた状態で発見されたもので、その後、死亡が確認された。事業場内は緩やかな勾配の坂となっており、同路線バスは坂の中腹の縁石付近にエンジンがかかったままの	40202	100～

		7	状態で停止していたもの。災害発生時、被災者は1人で作業していたもので、目撃者もおらず、詳細な発生状況は不明。		299
2018	12	0 ～ 1	被災者は自家用車にて新聞配達中に、車の方向転換をするため一般住宅敷地内に後進で侵入したところ、住宅の外壁に車の左後部が衝突したことから、衝突した外壁を確認するため運転席から降りたところ、直後に転倒して敷地の傾斜により逸走した車の車体下部と路面の隙間に腹部等を挟まれたもの。なお、車が逸走した距離は数十センチであり、逸走した路面の傾斜は最大3度程度であった。	80205	10～ 29
2017	6	14 ～ 15	被災者は車庫内に駐車していたスクールバスのエンジンを始動させ、暖気運転したまま、降車したところ、無人のバスが逸走したため、制止させるためにバス前方ある「ドア開閉スイッチ」を操作しようとした際に同バスに轢かれた。	170209	1～9
2017	12	12 ～ 13	被災者は正午頃に同社のバス運転手から車両の不具合について連絡を受け、午後1時頃から当該バスの整備を始めた。その後、整備は車両後方のみを油圧ジャッキにより持ち上げ、エンジン付近の不具合箇所をエンジンをかけたまま確認していたところ、不具合箇所付近で回転していたプロペラシャフトに巻き込まれ死亡した。	40202	30～ 49
2016	2	3 ～ 4	駐車場から何かがぶつかったような音がしたので見に行くと、タクシーの右前のドア（内側）と駐車場の柱に挟まれている被災者を発見した。病院に搬送されるも、その後死亡が確認された。	40201	50～ 99
2016	4	21 ～ 22	業務終了のため、敷地内にある門形の洗車機でタクシーを洗車しようとした労働者がタクシーを洗車機の車止めまで前進させた後、ドアを開けてタクシーから降りようとしたところ、タクシーが動き出し、洗車機本体にドアが接触して閉じ、ドアと車体との間に首及び体をはさまれた。	40201	30～ 49
2016	5	7 ～ 8	スキー場駐車場内において、他部署の同僚が車庫から社用車（ワゴン車、車体重量2.5t、排気量2900CC、10人乗り）を移動させるためバックさせていたところ、車体後部にいた被災者に激突した。そのため、倒れた被災者が後輪のタイヤに頭部を轢かれ、くも膜下出血により、搬送先の病院	140309	10～ 29

			にて死亡した。		
2016	5	19 ～ 20	送迎バスの運転者である被災者が、乗客を降ろしてから次のバスの発車時刻まで待機している間に、バスと建物外壁の間に挟まれているところを警備員が発見した。救急搬送されたものの、搬送先医療機関にて死亡が確認された。	40209	300 ～
2015	6	23 ～ 24	カラオケスナックの客1名の見送りのために店の前の駐車場に出た店員2名は、当該客が依頼した運転代行業者の随伴用軽自動車にはねられ、1名が死亡、他の1名も重傷を負った。当該自動車の運転者は、客の車の横に当該自動車を止めて降車したところ、当該自動車が動き始めたため、車外から立ったまま左足を車内に踏み入れてブレーキペダルを踏もうとしたが、誤ってアクセルペダルを踏んだもの。	140209	1～9
2015	9	9 ～ 10	病院敷地内の私道上において、正門付近のマンホールの蓋に設けられたのぞき窓を開けて水道管の流量計の検針作業中、市から業務委託を受けたタクシー会社が運行するバスが市道を左折して正門から進入してきたところ、被災者に気づかずに轢いたもの。意識不明により治療を行っていたが、10月10日の1時に脳挫傷により死亡した。	150101	10～ 29
2014	2	8 ～ 9	幼稚園行事のため訪れる保護者の車を幼稚園専用駐車場で誘導中、誘導していた車が猛スピードでバックしたためその車に轢かれ、その車とともに隣地の田んぼに転落、車の下敷きになった。	120109	30～ 49
2014	3	8 ～ 9	被災者は、エンジンを掛けたまま乗用車から降り、河川の状況を確認していたところ乗用車が動き出し、背後から轢かれ乗用車の下敷きになった。	170209	1～9
2014	6	9 ～ 10	整備工場内にてタクシーの修理作業中、車両をジャッキアップし、寝板を使い、車両下部に入った際、ジャッキが外れ、被災者が車両の下敷きになっているところを同僚に発見された。	11701	1～9
2014	6	8 ～ 9	事業場内の坂道途中の側溝にて、被災者が自家用車の下敷きになっているところが発見された。	150101	30～ 49

2014	9	9 ～ 10	所定の喫煙場所で休憩しようとした際、来店してきた乗用車が被災者に向かって暴走し、下敷きとなった。	80209	10～ 29
2014	9	11 ～ 12	ゴミ焼却施設にて、パッカー車へゴミの積み込み作業を行っていたところ、パッカー車へゴミを積もうと後退して来た乗用車がパッカー車に激突し、被災者がパッカー車と乗用車との間に挟まれ、腰などを強く打ち、死亡した。	150103	50～ 99
2014	11	13 ～ 14	バスの運転手である被災者が、車庫（約3度の下り斜面の転回場）にて、テールランプの交換を行っていた際、バスが動き出し、市道を下り始めたため、被災者が止めようとバスの前方へ回り込んだところ、引きずられ圧死した。尚、バスの前バンパーの乗降口の扉を開けるためのレバーのカバーは開いていた。	40202	100 ～ 299
2013	2	19 ～ 20	ホテルのバスが、ホテルエントランスを後退しながら公道に出ようとしていた。たまたまエントランスにいた被災者は、バスの後退誘導を行っていたが、バス運転者が電柱のある右方向に急にハンドルを切ったため、被災者が運転席のある方に移動したところ、背後にあった電柱との間に挟まれた。	140101	50～ 99
2013	7	16 ～ 17	警備業務を終えた被災者は、元請の担当者から警備日報にサインをもらおうと、工事場所から離れた位置に止めていた車（自家用車）を運転して、元請の担当者に近づいたあたりで車から降り、日報を渡した際、車が後退し始めたので、運転席側のドアを開けブレーキを踏もうとしたが、車が急加速したため、開けたドアに体を押される状態で約26m後退した後、車とともに道路脇の田んぼのあぜに転落し、車輪の下敷きとなった。	170201	30～ 49
2013	11	12 ～ 13	タクシーにて出張先へ行き、目的地のビル敷地内ロータリーで降車した後、車体後部のトランクから荷物を下ろし、タクシー後方に立っていたところ、タクシーが突然バックして来たため後方へ押し出され、そのまま2～3m先にあるビル壁面のガラスとタクシーとの間に挟まれた。	170209	100 ～ 299
		10	中型バスのエンジンを取り外すため、タイヤ後輪下に直径50cm、幅15cmのタイヤを上1つ、下2つ2段にかさ上げ状態で、クラッチをバックに		10～

2011	3	～	11	入れ、下にもぐり、被災者がエンジン部品をガス溶断機などを使って取る作業を行っている際、中型バスが後方に動き、地面とバスに挟まれ、内臓を圧迫されて死亡した。	80209	29
2011	1	～	16	タクシー運転手が、ドライビングスクールの教習生の送迎準備として、スクールの玄関南東側に停車していた送迎車（15人乗り、軽油、MT）のエンジンを始動したところ、送迎車が前進にてスクール敷地外まで走行し、公道である歩車道間の街路樹に送迎車の運転席側ドアが衝突、当該ドアと送迎車右側Bピラーに胸部を挟まれ、翌日死亡したものの。	40201	30～ 49
2011	9	3 ～ 4		高速の下り車線で被災者は前方の車に追突し、事故処理で他の事故を誘発させないために、非常用の三角表示板を車両後部のトランクから取り出そうと後部にまわったところ、後方から来る車両に追突され、車両の間に挟まれて死亡したものの。	40201	100 ～ 299
2010	12	～	18	被災者は、自動車整備工場内で自動車のリアバンパーを交換するためリフトで自動車を1m10cm程持ち上げて作業を行っていた。その後方、約6mのところでは他の自動車の整備を行っていた他の労働者が、整備を終えて自動車を後退させたところ、被災者に激突し被災者自身が整備していた自動車のリアバンパーと後退してきた自動車のリアスポイラーに頭部を挟まれて死亡したものの。自動車を後退させた労働者が、自動車のブレーキパッドの交換後、ブレーキペダルを数回踏んでブレーキの踏み代を出していなかったため自動車のブレーキが効かなかった。また、自動車を後退させる際に合図を行わなかった。	80202	10～ 29
2009	11	16 ～ 17		バスの点検・整備・修理のため、1人でバス左後輪部分とバスの車体の間に身体を入れ修理作業を行っていたところ、はさまれた。	11701	30～ 49
2008	8	～	18	被災者は、事業場が契約している青空駐車場でデイサービス利用者送迎用ワンボックス車と私用車の入替を1人で行っていた。被災者は私用車の右後方に停車させ、私用車を移動させようとしていたところ、ワンボックス車をドライブに入れたままサイドブレーキを引いて停車させていたため、動き出	130201	50～ 99

			したワンボックスを止めようとしてひかれた。		
2008	10	11 ～ 12	被災者が23人乗りのバスを事業場から運転して約2度の緩やかな傾斜がある 駐車場に停車させ運転席を離れて乗客を待っていたところ、バスが動き出し て向かいにあった小屋とバスの前面との間にはさまれた。	40201	30～ 49
2008	10	11 ～ 12	被災者は、牧場構内出入口に設置された鉄製扉と乗用車との間にはさまれた 状態で発見され、病院へ収容されたが死亡した。なお、被災者は一人作業で 牛に給餌するために乗用車から降りて鉄製扉を開錠しようとした際、自分が 乗ってきた車が動き出しはさまれ被災した。	70101	10～ 29
2007	11	16 ～ 17	被災者は、中古車の清掃工場において、車体後部の清掃作業を行っていた が、後方から移動してきた別の車と自らが清掃を行っていた車との間にはさ まれた。	170209	10～ 29
2007	10	7 ～ 8	事業場の駐車場において、被災者が社有車（軽ワゴン車）の運転席扉と車体 との間にはさまれている状態で発見された。被災者が業務に出かけるため に、社有車の運転席の扉を開け、運転席に着かずに地面に立ったままエンジ ンを始動したところ、社有車が前方に動き出し、その後、開いた状態の運転 席の扉が立ち木に当り、扉が閉められる形となり被災者が扉と車体の間には さまれた。	80202	1～9
2007	9	13 ～ 14	イベント会場にある搬入口に社用車を一時停止し、荷を搬入し終えてまもな く、被災者は、車が逸走して後退するのを発見し、車の後部に回り停車させ ようとして、その車に巻き込まれた。	11403	300 ～
2006	2	6 ～ 7	事業場敷地内でエンジンがかかったまま停車中の送迎用ワゴン車（ＡＴ車） が動きだしたため、そのワゴン車のドアから運転席に飛び乗ろうとしていた ところ、動いた先に駐車してあったライトバンにワゴン車のドアがあたり、 ワゴン車のドアとライトバンの間にはさまれた。	10109	100 ～ 299
2005	5	6 ～ 7	タクシー会社の駐車場で被災者が乗車する車両に向けて歩行中、走行中の車 両とブロック塀との間に挟まれた。	40201	100 ～ 299

2005	3	13 ～ 14	送迎用マイクロバスを路上に駐車したところ、マイクロバスが無人で動き出してたため、マイクロバスに乗り込もうとしたが、開けた運転席側扉が住宅の門柱に衝突したはずみで閉まり、被災者が車体と閉まった扉との間に挟まれた。	40202	300 ～ 499
2005	12	17 ～ 18	業務が終了し帰宅するため、車を敷地境界付近に停車させ出口のバリケードを立てていた際、急に車が動き出したため、被災者は慌てて車に乗り込もうとしたが止められず壁に激突した。	120109	1～9
2005	6	14 ～ 15	バスの修理作業のため、バス床下のシャーシに油圧式ジャッキ及びうまを利 用してバスを持ち上げ、修理終了後に、うまを取り外すために、一旦、 ジャッキアップした際、滑り止めとして使用していた木材が割れ、うまが シャーシから外れたためにバスが沈み、バスの後部付近にいた被災者が挟 まれた。	11701	1～9
2004	4	11 ～ 12	町道で、送迎用マイクロバスの方向転換をされていて、道路から脱輪してい ないか確かめるためバスからおり、バスの前に回りこんだところ、無人のマイ クロバスが前方に動き出し、そのマイクロバスと民家のブロック塀の間に挟 まれた。	170209	1～9
2004	9	7 ～ 8	自家用車で出勤してきて、事業場構内の駐車場にバックで駐車させようと運 転席の窓から顔を出し、車を後進運転させていた際、その状態でパワーウィ ンドウのスイッチを上げてしまい、挟まれた。	10902	300 ～
2004	5	14 ～ 15	整備工場のピットにおいて、バスの下廻りに係るなんらかの作業を行ってい たところ、当該バスが動き出したため、バスの前にまわり停止させようと した際、バスと給油所柱に挟まれた。	11701	1～9
2004	12	17 ～ 18	ビルの立体駐車場の出入口のターンテーブルに乗せた車を後退させるつもり が、誤って強くアクセルを踏み込んだため急発進し、近くで待機していた被 災者に衝突した。	170209	50～ 99
2004	11	10 ～	乗用車の車検整備作業中、交換が必要な部品（排気温センサー）を同一メー カーの廃車から取り外そうと、廃車の前部側方に油圧ジャッキをあてて約 50cmリフトアップさせた後、車両下部に潜って取り外し作業を行っていた	11701	1～9

		11	ところ、突然車が後方にずれ、同時にジャッキが倒れたため、車の下敷きとなった。		
2004	9	13 ～ 14	地ごしらえ作業の現地確認のために、傾斜地の上部に乗用車を駐車し、道具類を車内後部から取り出そうとした際、動き出した乗用車にひかれた。	60209	1～9
2003	9	16 ～ 17	スイミングクラブ駐車場内において、駐車ラインの塗装作業を行っていたときに、スイミングクラブ利用者の軽自動車にはねられ、後輪に引っかかって約5m引きずられた。	120109	50～ 99
2003	5	16 ～ 17	バスを運転して操車所まで行き、誘導員の指示に従い所定位置に停車させて事務所で食事をとっていたところ、誘導員がバスが動いていることに気付き、続いて運転手も気づいてバス前面に回り込んで止めようと試みたがバスは止まらず、道路反対側の川の堤防まで進んでバスの前面ではさまれた。	40202	50～ 99
2003	4	11 ～ 12	レッカー車で牽引してきた故障車（車両質量13.28t、成人病検診車）を牽引装置から切り離したところ、車輪止めを乗り越えて故障車が後退し始めたので、止めようと後ろに回り込み、故障車とコンクリートの壁との間にはさまれた。	80202	10～ 29
2002	10	10 ～ 11	自動車整備工場において、部品交換のためジャッキを使用して乗用車の前部を約60cm上昇させ車の下に入って作業をしていたところ、ジャッキが車から外れたため上半身が車の下敷きとなった。	11701	1～9
2002	11	16 ～ 17	タクシー乗務が終わって帰社し洗車のため事務所の隣の洗車機のところへ車を移動したのち、エンジンを掛けたままトランクに付いているアンテナを取り外そうとしていたときに、サイドブレーキが十分に掛かっていなかったため車がバックし車体後方の下部と地面との間に挟まれた。	40201	50～ 99
2002	9	13 ～ 14	水道管改良工事において、完了部分の気密テスト（水圧試験）のため、道路上のマンホール（直径60cm、深さ1.2m）を開けマンホール内の圧力計を点検していたときに、マンホールの近くに駐車していたワゴン車が発進したため轢かれた。	30110	1～9

2002	9	17 ～ 18	退社のため事務所前に停車していたマイクロバスに乗ったが、忘れ物をしたためバスを降りてバスの前を横切って事務所へ戻ろうとしたときに、バスの後方から走行してきたライトバンに轢かれた。	30203	1000 ～ 9999
2002	4	10 ～ 11	整備工場の自動車完成検査（車検）場所において、ブレーキテストのため乗用車（2000cc）の前輪をテスターに乗せシフトをDレンジに入れた状態で車から降り、次のサイドモールテスト（車両バランス）の準備のため車の前方付近で作業中、テスターのストッパーが解除されたためアイドリング状態であった車が走り出し車両と壁との間に胸を挟まれた。	80202	10～ 29
2002	1	8 ～ 9	工場内の除雪のため、車庫より除雪車両（RV車に除雪用ブレードを取付けた車）を出そうとしてドアを開けて車外からエンジンを駆けたところ、ギアが入っていたために車両が前進し、開けたドアが車庫の壁にぶつかってドアと車体の間に身体を挟まれた。	170209	100 ～ 299
2001	10	18 ～ 19	停車している大型バスの室内清掃作業を行なうため構内を歩行中、切り返しを行ってバックしてきた自動洗車機内の大型バスの右後輪に胸部をひかれた。	40202	30～ 49
2001	6	17 ～ 18	営業のため、客先に軽自動車(600ccのトラック)で同僚と訪問し、地下駐車場より出庫するため同僚の運転する車を誘導していたところ、車と壁の間に挟まれた。	170209	1～9
2001	8	8 ～ 9	敷地内の駐車場から配達に出るため軽ワゴン車のドアを開け車外からエンジンをかけたところ、ギヤがローに入った状態であったため、車が急発進し隣に並んで駐車してあった別の軽ワゴン車とドアとの間に挟まれた。	10104	30～ 49
2001	5	6 ～ 7	エンジン故障修理のため搬送してきた自動車をキャリヤカーから降ろす作業で、自動車のエンジンがかからないためキャリヤカーに積んでいた他の自動車で牽引していて、2台の車の間に挟まった。	40301	10～ 29
2000	1	17 ～ 18	乗用車の運転席から下車しようとドアを開けたところ、20メートル近い強風に煽られてドアが開いたので、ドアを内側に押さえようとしたときに、車が前進して前方右側にあったコンクリート製電柱に開いたドアが接触したため、車体とドアとの間に挟まれた。	80209	1～9

1999	12	18 ～ 19	車庫において29人乗り中型バスの前部に格納されたスペアタイヤの空気圧調整作業をするときに、サイドブレーキを引いてなかったバスが動き出し、手で押さえようとしたが、押さえ切れずにバスと電信柱との間に挟まれた。	40202	1～9
1999	4	11 ～ 12	オークションのため運搬してきた車両の配置等の調整を行うため事務所を出て構内を移動中、運搬してきた車両を降していたトレーラーの登坂用板につまづいて転倒したところにトレーラーからバックで降りてきた車にひかれた。	170201	100 ～ 299
1999	8	7 ～ 8	車で出勤してきて駐車場で、運転席ドアを開けて身を乗り出し、駐車スペースにバックで車を入れていたときに、隣に止めてあったワゴン車と自分の車のドアに頭を挟まれた。	80409	1～9
1999	5	8 ～ 9	建設現場から出る廃土を運搬してきた、ワゴン車をドラグショベルの手前3mほどの下り坂になっている位置に停車させ、エンジンを止めてワゴン車を降りたが、ブレーキもかけず、ギアを「D」レンジに入れたままであったために、ワゴン車が動きだし、ドラグショベルの後方でワゴン車に激突され、ドラグショベルとの間に挟まれた。	40301	10～ 29
1999	2	13 ～ 14	客の車を預かって駐車場内を移動させたときに駐車場の柱に車を接触させたため、接触跡を確認するために運転席ドアを開けて降車したところ、ギアがバックに入っていたので車が無人のまま後方に動き出し、車体と柱との間に挟まれた。	140101	1～9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_31.htmlに戻る。